

令和2年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)				前年度の成果と課題			本年度学校経営の重点(短期経営目標)							
「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りに貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。 (1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。 (2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。 (3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。				令和に元号が替わる祝賀ムードの四月から始まったが、年度末の新型コロナウイルス感染予防による長期休校など慌ただしく終わった一年であった。その中でも南北両キャンパスの教職員の協力により、大きな混乱もなく新年度準備が出来たのは幸いであった。本校の特色である八幡支援学校との交流及び共同学習についても、積み上げてきた実績に基づいて、両校のスクールパートナーシップを深めることができた。 年々厳しさを増す生徒募集状況の下、今後の更なる充実・発展のためには、積年の課題であり、生徒アンケートでも指摘される「学校全体に学習する雰囲気が欠けている」という状況の改善が課題である。「スマートスクール構想」に呼応してICT環境の整備を進めたが、全教員が積極的に授業改善に努め、生徒の基礎学力定着と、自ら課題を解決する力を養うことが望まれる。それが地元中学生から選ばれる魅力ある学校づくりにつながるものと確信する。			南北両キャンパスの一体感を基盤として、あらゆる教育活動をとおして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。 (1) ICT機器活用を含む学習形態のUD化推進と、学習評価に関する研究の一層の活性化 (2) 普通科と2つの専門学科それぞれの現状分析及対策の実行、改善に向けた検討 (3) 就修学保障及び進路保障に向けた指導改善の研究・研修の充実 (4) 保護者・地域連携による基本的生活習慣及び社会的自立心の育成 (5) 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による学校の活性化 (6) 八幡支援学校との協働を含めたインクルーシブ教育の推進・研究 (7) 安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実							
分掌・教科		評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標		ターゲット	評価	具体的方策		方策の評価指標		ターゲット	評価
				「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたとみなすか。				重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。		どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間	年度末
組織運営	組織運営	教育力の向上	学校の教育力を一層向上させる。	教職員の研修機会を増やし、資質向上に努める。	研修受講数			センター研修の積極的な受講を促し、受講する機会を増やす。 授業見学の充実	受講数 授業見学に参加する教員数	前年度比増 延べ100人以上				
	組織運営	広報活動	積極的な広報活動に努め、中学生や保護者、府民の本校に対する理解を深め、志願者の増加をめざす。	報道機関による報道回数	前年度比増		報道機関等へ積極的な広報活動を行う。	報道回数	前年度比増					
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	年度末アンケートでの「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」項目に対する肯定率	90%		校内のUD化を推進する 効果的なUD学習を実施する	企画実施回数 担任の先生による肯定率	3回以上 80%以上					
	組織・運営	生徒募集	本校の魅力を効果的に発信し、志願者を増やす。	入試選抜における志願者数	募集定員を超えている		学校ホームページの充実 校門周辺の掲示物を改善する 学校説明会の開催	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 改善回数 参加者のアンケート肯定率	80回以上 3回以上 85%					
教務部	組織・運営	生徒異動	学習システムのUD化を進める	転退学者数	昨年度比減		考査前、学期末に成績不振者に対する基礎補充を実施する 追認対象生徒に対する補充を実施する 欠課過多生徒の報告(連絡)の徹底を呼びかける	成績不振者数 追認認定率 欠課過多生徒数	昨年度比減 80%以上 昨年度比減					
	組織・運営	学力向上	学習指導の充実を図る	生徒満足度調査「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%		読書活動の推進 ICT活用の推進	生徒一人あたりの貸し出し冊数 ICT利用率	昨年度比増 10%増					
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせる環境をつくる。	生徒満足度調査「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	肯定率 75%以上 強い肯定率 35%以上		盗難がおこらない環境の整備及び啓発活動 交通安全等に関するのHR指導(交通安全指導、担任への資料提供等) (北キャンパス)身だしなみ強化期間の設定 (南キャンパス)遅刻生徒に対する指導の強化	生徒満足度調査(Q13)の肯定率 実施回数 実施の回数 遅刻回数	肯定率 80%以上強い肯定率 30%以上 12回 1回 昨年度より10%減					
	生徒指導	部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	生徒満足度調査「本校には打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率 75%以上 強い肯定率 35%以上		部活動加入を促進口 生徒部通信等の発行によるアピール 部活動 部長会の開催	12月時点での部活動加入率 発行回数 実施回数	40% 10回 3回					
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	学校満足度調査「就職・進学に関する情報の提供は十分だと思えますか」の肯定率	肯定率82%		進路情報の提供 進路対策会議の実施 ホームページ記事の更新	生徒向け進路だより(生徒向け・教員向け)の発行回数 対策会議の実施回数 記事の更新回数	3回以上 2回以上 30回以上					
保健部	保健管理	環境管理	環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート17「教室や廊下、下駄箱等はきれいに清掃されていますか。」の肯定率	65%		生徒会、安全美化委員会、保健委員会で、清掃活動への取組に関する呼びかけを行う。 「ほけんだより」で環境美化についての呼びかけを行う。 エコキャップ運動に関する呼びかけあるいは教室掲示を行う。	呼びかけの回数 掲載回数 掲示等の回数	3回 3回 3回					
	保健管理	健康管理	心身の健康管理への意識を高める。	学校満足度アンケート質問16「本校は、生徒の心身の健康管理に取り組んでいると思いますか。」の肯定率	72%		「ほけんだより」や「スクールカウンセラーだより」で心身の健康管理について取り上げる。	掲載回数	3回					
第1学年部	学習指導・生徒指導	規律の確立	授業を大切にすると基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒満足度調査「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%		日々のSHRにおいて遅刻・欠席・授業規律などの徹底した指導を行う。 生徒の状況を把握するために担任と生徒及び保護者との面談を行う。 主に総学を活用し、生徒が自分の課題に応じて学びあいをする時間を設ける。	担任による確認・指導頻度 面談の実施回数 学習会の実施回数	週3回 年間3回 年間10回					
第2学年部	生徒指導 進路指導	学力の育成及び生活規律の確立	基礎学力の定着、基本的生活習慣の確立及び具体的な進路目標を持たせ、規範意識を持った集団の育成に努める。	満足度アンケート「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	肯定率 75%以上		進路情報の提供と個別面談の実施 安心して学校生活を送れるよう生徒の状況等を学年会で共有する。 南北キャンパスの連携を図り、研修旅行、文化祭などの学校行事の充実を図る。	進路学習及び面談回数 ①学年会での情報の共有と指導の方向性の確認②手立てを要する生徒との面談 情報の共有と指導の方向性の確認	学習3回面談5回 ①学年会毎週必要に応じて随時 必要に応じて随時					
第3学年部	生徒指導 進路指導	生活規律の確保及び進路保障	規律ある学校生活を通して、生徒各自が進路希望を実現し、卒業する。	年度末の進路決定者の割合	95%		個別面談を通して生徒各自の希望進路を把握し、進路指導部及び保護者と連携して適切な指導に努める。 進路実現に向けて進学希望者に対する学習環境の整備及び就職希望者に対する指導体制の整備に努める。 南北キャンパスの連携を密にする。	手立てを要する生徒・保護者との面談回数 自習室の設定日数及び面接等の個別指導の回数 情報の共有頻度	年間3回以上 自習室毎日個別指導4回以上 週1回					
事務部	施設・設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実を努める。	施設・設備に起因する生徒の事故件数	0件		各分掌、教科からの予算要望書提出時などの際に、施設設備の状況確認を行う。 教職員からの施設設備異常の報告を受けた際に、速やかに方策を検討する。 整備を必要とする事項を所管課に報告し、改善を依頼する。	予算要望ヒアリングの実施、予算配分通知の提示 改善の時期、施工中の進捗状況、改善完了等の逐次報告 年間の報告・依頼回数	1回 報告毎 3回					
	組織・運営	事務処理	就修学保障、進路保障に係り、生徒・保護者に対し、就学支援に関する案内や事務処理を適切に行う。	就学支援精度について、生徒・保護者への周知徹底	精度通知の都度		高等学校等就学支援事業、日本学生支援機構奨学金などの就学支援制度に係る事項について、生徒・保護者向けの案内や手続きの進捗状況を事務部内(北南)及び学年部と共有する。 教職員(特に学年部)との連携を密に行う。	予算要望ヒアリングの実施、予算配分通知の提示 改善の時期、改善完了の逐次報告	1回 配布毎、回議毎					
専門学科	魅力ある学科作り	学習指導	専門学科生としての学習意欲を高める	生徒満足度アンケート「学校全体(南)に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	70%以上		授業の開始時と終了時の礼と挨拶、授業の準備を徹底する 学科集会を実施し、各学年の連携を図る	授業アンケート10「私は授業の準備をしっかりとっている」 開催回数	3.6 学期に1回					

	分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価
				「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたかとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。	中間	年度末
	国語科(北)	学習指導	学力の向上	意欲的・主体的に学習する習慣を作り、学力を向上させ、それを実感させる。	授業アンケートQ6、10、11、12の平均値	3.5		毎回の授業で、授業内容の理解度の確認を実施し、評価する。 各単元につき1回以上の提出課題または発表課題を課し、内容について評価する。 家庭での学習習慣の定着を促し、計画的に小テストを行う。	実施率 実施回数 実施率	80% 単元に1回以上 80%	
	地歴・公民科(北)	授業	基礎学力の向上	日々の学習習慣の定着化を図り、基礎学力を向上させる。	授業アンケート項目Q5.6.8の平均値	3.4		授業開始時に授業に必要な物の確認を行う。 各考查ごとに、授業内容の振り返りを行う。 各学期ごとに他教科も含めて授業見学を行い意見交流を行う。	年間実施率 実施回数 実施回数	95% 5回 年2回	
	数学科(北)	授業	授業規律の向上と授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒達に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」Q10「私は授業の準備をしっかりとっている」の平均値	3.3		服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。 意欲を高めるプリントや教材を作成し、演習をさせる。 指導方法や評価方法についての教科内研修を実施する。	授業の取り組みの点検 プリント等利用の回数 教科内研修の実施	週3回 週1回 年3回	
	理科(北)	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心を持たせ、自然現象に対する関心と理解を高める。	学期毎の不振者数	前年度比10%減		生徒の学習内容の定着度をはかるために単元毎以上の頻度で確認テストを行う。 実物を手にとりての観察や実験を実施する。 校外研修等へ参加し、研究と修養に努める。 授業・受け持ち生徒に関する報告・検討会を設ける。	確認テストの実施回数 実験・観察の実施回数 研修参加回数(1人につき) 報告・検討会年間実施回数	各科目単元数以上 各講座毎均3回 平均3回 年間80回	
	保健体育科(北)	授業	学習意欲の向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力、態度の向上を図る。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.5		ベル着の徹底及び集団行動の充実・定着を図り、ルールやマナーを守りながら安全に留意して活動できる規範意識の向上を強化する。 健康の保持増進につながる運動の大切さを理解させるとともに、体づくり運動、持久走・ロードレースを必修とし、基礎体力の向上を目指す。 個に応じた指導など授業内容を工夫し、意欲的・積極的に授業へ参加する意識の向上を養う。	体育の2分前集合完了、保健の1分前の授業準備完了の割合 サーキットトレーニング30秒MAX及び持久走・ロードレースの記録向上の割合 保健体育の両科目で成績不振・欠席過多による単位不認定者	60% 60% 40人以下	
	芸術科(北)	授業	授業に対する取組状況	授業規律を確保し、毎時間活動内容に真剣に取り組む姿勢を身につけさせる。	授業アンケートの項目7,8,10,11の値	3.5		授業開始ベルの前からベル着を呼びかけるとともに、忘れ物の確認、私語、居眠り、活動状況等について常に指導する。 課題に対して、より良い作品やより良い演奏に向けて努力するよう指導する。 発表の場を設けることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。	授業規律確保のための声掛けの割合 各生徒の活動状況に応じた指導の割合 講座クラス内を含む、人前で作品や演奏を発表する場面の設定	90% 80% 各講座毎2回以上	
	英語科(北)	学習指導	基礎学力の向上	授業を大切にする意識を育て、家庭学習習慣の確立及び基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ6～Q12の平均値	3.3		小テスト等を実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する。 課題をこまめに提出させて点検を行い、取り組み状況を確認すると共に、不十分な生徒は指導する。 授業内演習や表現活動を実施し、生徒が主体的に取り組む時間を確保する。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	5回以上 4回以上 2回以上	
	家庭科(北)	学習指導	学習意欲の向上	前向きに授業に取り組ませ、自分の今後の生活を改善する方法を考えさせる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている。」の平均値	3.3		興味関心を高めるために視聴覚教材を効果的に使用する。 授業内で考える場面を設定する。 課題を点検し、生徒の理解度を確認する。	ICT機器の使用割合 考える課題の設定割合 課題の点検回数	90% 80% 1年：6回2年：毎回	
	情報科(北)	授業	授業に対する取組状況	前向きに授業に取り組む姿勢を身につけるとともに、情報機器に関する基礎技術の底上げをおこなう。	授業アンケートの「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3		授業開始時にコンピュータのログイン、教科書等の授業準備が完了しているよう指導をおこなう。 忘れ物の確認をおこなう。 課題・授業プリントの提出を徹底する。	生徒自身の授業準備完了率 実施率 提出状況	90% 80% 80%	
	商業科(北)	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の修得と資格取得。	授業アンケート「学力や技術が伸びた」の回答の平均値	3.1		生徒が、主体的に研究する取組を入れる。 生徒同士で対話する取組を入れる。 資格取得の有効性を説明し、受験者および合格者を増やす。	各授業での年間実施回数 各授業での年間実施回数 ビジネス系検定試験の受験者数	2回以上 2回以上 20人以上	
	国語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	基本的な学習態度を身につけさせ、積極的に学習する雰囲気作りを工夫する。	授業評価アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりとっている。」、Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の平均値	3.3以上		定期考查ごとに、ノート回収し点検する。 1年生国語総合・2年生現代文において、漢字の小テストを実施する。 授業開始時に、教科書・ノート等の準備ができているか確認する。	ノートの点検回数 小テストの実施回数 声かけの回数	定期考查毎 1年生15回以上2年生10回以上 毎回	
	地歴・公民科(南)	授業	基礎学力の向上	授業を意欲的に取り組む姿勢を身につけさせ、基礎学力の向上を図る	授業アンケート項目Q1～Q12の平均値	3.3		授業中にノートを取らせる。また、学習項目毎にまとめ・感想を記入させる。定期的に点検をし、加点の対象とする。 授業開始時に、教科書・ノート等の準備ができているか確認する。	実施回数 年間実施率	5回 95%	
	数学科(南)	授業	基礎学力の向上	授業規律を確立する。 生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとっている。」の平均値	3.4		課題を課し、家庭学習の習慣と基礎学力を身につけさせる。 始業チャイムと同時に立礼をする。	実施割合 実施割合	70% 90%	
		検定・資格	検定受検・資格取得	数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	数学検定の受験者数	5人		α講座に於いて、数学検定への受験を呼びかける。 数学検定に向けた補習を実施する。	授業内での呼びかけ 補習の実施回数	3回 2回	
	理科(南)	学習指導	基礎学力の向上	学習に取り組む姿勢を高め、学力の定着を図る	学期毎の成績不振者数	各講座1名以内		各生徒の学習状況を把握するため定期考查毎にノート点検。 成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。	学習したノートの提出 成績不振者への補充実施	定期考查毎に提出 定期考查毎に実施	
	保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	授業開始時の意欲を高める。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとっている。」の平均値	3.8		体育/保健の授業開始時における生徒準備状況を評価する。 授業を欠席、見学した際に届けを期日内に提出させる。	5分前・3分前・1分前に集合整列、または活動の準備をしている生徒の点検頻度 欠課届け、見学届けを期日までに提出させる達成率	90% 60%	
	芸術科(南)	学習指導	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業評価アンケート7,8,9の平均値	3		必要物を確認し、不要物への指導を行う。 意欲的に取り組む姿勢を高めるよう指導する。 私語・居眠り・活動状況等について常に指導し、授業規律を確保する。	確認割合 生徒の活動状況に応じた指導の割合 授業規律の確保のための声掛け割合	80% 80% 80%	
	英語科(南)	学習指導	授業	授業を大切にする意識を育て、基礎学力を向上させる。	授業アンケートQ4、10、11の平均値	3.3		小テストを実施し、各項目ごとに課題を課す。 AETとのTTを通して、生徒の英語への関心を高める。 インタビューテスト等の表現活動を行い、生徒が主体的に授業に参加する機会を設ける。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	6回以上 2回以上 1回以上	
	家庭科(南)	学習指導	基礎学力の向上	実践的・体験的な授業を通して、家庭科に対する興味関心を引き出すとともに、知識・技能の向上をはかる。	授業評価アンケート5,6の項目の平均値	3.1		実践的・体験的な授業の実施 ICT機器を活用した授業の実施 授業時間内の課題や、振り返り課題の実施	実践的・体験的な授業割合 実施割合 実施割合	60% 60% 90%	
	情報科(南)	授業	基礎学力の向上	授業に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ7(授業の準備)、Q9(意欲的取り組み)の平均値	3.2		授業開始時にはコンピュータ起動ができているか点検する。 課題への取り組み状況や態度を点検する。	指導割合 指導割合	90% 90%	
	福祉科	学習指導	基礎学力および、専門的な知識や技術の定着	学習環境を整え、福祉に関する専門的な知識・技術の定着を図る。	授業アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりとっている」、Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体の平均値	3.3		授業に集中できるように、授業規律を確立する。(姿勢を正し、私語を許さない) ICT機器を活用した授業を行い、授業のUD化の推進をはかる。 定期考查毎にノート回収し点検する。	授業アンケートQ8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体平均値 すべての科目で年間実施回数 ノートの点検回数	3.3 2回以上 定期考查毎	